

インクルーシブ教育 活動計画案

インクルーシブ教育推進課

1. 対象 幼児（幼稚園、保育園、こども園）5歳児クラス（合計〇名）
2. 日時 平成〇年〇月〇日（〇）△：△～△：△
3. 場所 各組 等
4. 主題名 「あなたのすきないろは？」
5. ねらい 一人ひとりに好きなものや好きなことがあり、お互いにそれらを認め合うことの大切さに気づく。
6. 準備するもの
 - ぬりえ（例はTシャツだが、帽子、洋服、花など、こどもたちが様々な色でぬることができるものがよい）
 - クレヨン、色鉛筆、マジック等
 - マグネットなど（児童が色をぬったぬりえを黒板に掲示するためのもの）

7. 活動の流れ

時間	主な保育活動	・予想される園児の反応 *留意事項
導入 (5)	1、本時の活動内容を知る。 2、「すきな〇〇」 ①自分の一番好きな果物を思い浮かべる。 ②グループ内で「せいの」のかけ声で同時に発表する。 ③それぞれが発表したものを確認する。 ④「すきな動物」「好きなおかし」などについて①～③を繰り返す。	・予想される園児の反応 *留意事項 * 4人程度のグループや全体で行う。 * 思い浮かべるのが難しい場合は、いくつか絵表示を出して、視覚的にわかりやすい工夫をする。 ・みんなが同じ意見の時に大きく取り上げてしまうとそれが良いと思ってしまうので・違う意見が出たときは園児が選んだものに対して肯定的な言葉を発する。 *ねらいやアクティビティとのつながりから、こどもたちが選ぶものが一致しにくいものをテーマにする。
展開 (10)	3、ぬりえを好きな色でぬる。 4、ぬりえを使って「何でもバスケット」 （例）「赤色でぬった人」「色鉛筆でぬった人」など	・ぬりえではなく、違うことに興味がある子、ぬりえが苦手な子については、好きな事、得意な事にも多様性があることに気付くよう促す。 *何でもバスケットはぬりえ以外のことでもよいルールにする。 ・肯定的な言葉を発する。
まとめ (5)	1、一人ひとりの好きなものには、ちがいがあることに気づく。 2、一人ひとりのちがいを理解し、尊重し合うことが大切である。 3、まとめの話を聞く。	